

ノ方法ニ相設追日物産増殖ノ運ヒニ可致ノ處該金
一時返納候テハ差向キ資本ニモ差支終ニ積年ノ功モ
廢類ニ屬スル様相成候間特別ノ御詮議ヲ以テ此際証
書相改更ニ拜借末十四年ヨリ無利子拾ケ年間御据置
相成候様致度此段併テ及上申候條何分ノ御指揮相成
度候也

明治十二年十二月十四日 新瀉縣令永山盛輝

大藏卿佐野常民殿

明治十四年十二月十四日

第一号

各議

主任
書記

別紙ニ示シ右同十四年度租稅局之他歩込
可致候一申為候由ヨリ御用ノ儀ハ十
月以降多他歩込ニ於テ租稅局ノ手物
本取扱候ヨリ同取扱ノ一取額ヲ要スル趣ニ
餘儀沙汰ニ付取扱許步込可致候左様取扱
高裁候也

御指令抄

甲三七三、越前屋、事

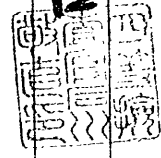
會計検査院へ通條

九
一
官

大藏省河十町身付租税局各地出張所
經費一本局經費ヨリ流用ノ儀ニ付身
四百四十九箇ヲ以テ以照會ノ趣了
取寄書並ニ年々敢テ不都合ノ程モ特
別該省河十町身付租税局ハ然ト存
依テ別紙返戻本院ノ議決ヲ經テ此取
引面子トシ

明治三十四年十月廿日

石川四等検査官



會計部書記官

少中

十四年度租稅局各地出張所經費ハ

本局經費ノ内ヨリ流用ノ儀ニ付伺

今般太政官第七拾五號公達ニ依リ本年十月以
降各地出張所於テ諸稅監查事務為取扱候ニ付
テハ本局員ノ内ヨリ各地在勤申付右俸給旅費其
他諸費ニテ金八萬八百八拾三圓出張所經費ハ增
額ヲ要シ候ニ付本局經費ノ内ヨリ別紙仕譯書ノ
通夫々科目流用ノ上費途支辨致度至急御許可相
成候様致度此段相伺候也

明治十四年九月廿八日 大藏卿佐野常民

太政大臣三條實美殿

甲二七三

一、四月二十日、在部行、スヘキ、九月ヨリ
赴任、又九月限リ、廢セシ、收務、多ク、負、モ、十月、以降、障
害、スル、事、ヲ、尋、常、増、員、ノ、外、一、時、出、張、所、ヨリ、支給
ス、ル、事、傳、給、増、加、ス、ル、ヲ、云、

十四年度經費

中科目流用仕譯書

仕拂見込高金六万四千四百三十四圓

租税局各地出張所

一金貳万五百拾三圓

俸給不足

但税税本旨俸給ヨリ流用

但本年太政官第七拾九号公達ニヨリ、来十月以降、諸税監査
事務取扱候ニ付、官員増置及一時交代ホ、為メ不足相生申候

金四万三千八百九拾圓

豫算高

仕拂見込高金八万貳千九百五拾九圓 全断

一金五万千百八拾壹圓

雜給不足

但前同新有旅費及勉勵賜金備給被服料ニ不足相生

申候

内

金七千五拾圓

本局俸給ヨリ流用

金四万四千百三拾壹圓

同雜給ヨリ流用

外

金三万千七百七拾八圓

豫算高

仕拂見込高金貳万三千八百拾七圓

全折

一金七千四百拾貳圓

廳費不足

但前同新

但本局雜給ヨリ流用

但前同新ニ付備品消耗品ヲ始メ其他諸費ニテ不足相生申候

外

金壹万六千四百五圓

豫算高

仕拂見込高金貳千八百七拾七圓

全折

一金千七百七拾七圓

宮繕費不足

但本局雜給ヨリ流用

但前全折ニ付更置出張所一時修繕増費ヲ要シ候ニ付不足相生

申候

外

金千百圓

豫備高

豫算高八万九千三拾八圓

租税局

一金貳万七千五百六拾三圓

俸給残額

但各地出張所経費ハ流用

金貳万五百拾三圓

俸給ハ流用

金七千五拾圓

雜給へ流用

外

金六万四千四百七拾五圓

仕拂見込高

全局

豫算高金七万五千三百三拾圓

一金五万三千三百三拾圓

雜給残額

但各地出張所経費へ流用

内

金四万四千三百三拾五圓

雜給工流用

金七千四百拾五圓

廳費工流用

金千七百七拾七圓

官路費工流用

外金貳万貳千拾圓

仕拂見込高

昭和十四年九月三十日

第一局

主任



原

局長

局長



子長大蔵君の遺族救済の旨に依りて
貸付金を充て、貸付金として昭和十四年九月
十日に於て、本邦の遺族救済の旨に
依りて、外金貳万貳千拾圓を以て、
貸付金として、貸付金として、
貸付金として、貸付金として、